

期待の新星・柿木蓮選手!!

白球に 思いを込め 突き進む



昨年、史上初となる同一高校2度目の甲子園春夏連覇を果たし、日本全国を沸かせた大阪桐蔭高校のエース・柿木蓮選手。昨年のドラフト会議で北海道日本ハムファイターズから指名され、入団が決定しました。

現在は、開幕一軍を目指し練習に励む中、今後の活躍が期待される柿木選手に野球への思い、また故郷・多久市への思いを聴きました。



1番を目指す
野球少年の誕生

1つ上のいとこの影響で小学2年生から野球を始めた柿木選手。

「いとこと一緒に野球がやりたくて、遊びの延長のような感覚で多久北部少年野球クラブに入り、毎日キャッチボールや基礎練習をやっていました。野球以外の遊びも知らないし、練習が嫌だと感じることもなかったですね」と話します。

上達したいという一途な思いで練習に励んだ小学生時代。その後、中学生からは佐賀東松ボーイズに入団し、頭角を現していきます。1年生の終わりには速球とスライダーを武器に、相手バッターから空振りや奪うピッチングで、全国大会へ出場。3年間で4度全国大会出場を果たします。さらに、3年生の時には「2015世界少年野球大会」の日本代表メンバーに選ばれ、世界の強豪国とも戦いました。



より高いレベルの
野球を求めて

世界大会では「チームメイトとチャンスに恵まれ、レベルの高い試合や素晴らしい選手と出会うことができました」「中学卒業を控え、もつとレベルの高いところで1番になりたい」という気持ちが強くなり、家族の後押しもあって大阪桐蔭高校への進学を決めました。プロ野球選手を意識し始めたのもその頃です」と野球に専念できる環境に身を投じます。

野球の強豪校で待っていたのは、慣れない寮生活や厳しい練習、そしてレベルの高いチームメイトとのポジション争いの日々でした。

負けん気の強い柿木選手は、その環境をバネに「力」をつけていきます。また、2年生の夏の甲子園で負けた悔しさや、先輩から譲り受けた「背番号1番」の重みが、柿木選手をさらに強くしました。

そして迎えた昨年夏の甲子園の力投では、151km/h